

4. 静脈注射業務について

— CT, MRI 検査時の造影剤投与・抜針業務

川又 郁夫 東海大学医学部付属八王子病院診療技術部放射線技術科

CT, MRI 検査の現状

平成23年医療施設（静態・動態）調査（厚生労働省）によると、国内ではX線CT装置が1万2943台稼働しており、年間の患者数が237万5954人、MRI装置は5990台稼働しており、年間の患者数が112万3961人となっている（図1）。

造影剤投与に関しては、X線CT検査とMRI検査における全国平均造影率は17%〔経済協力開発機構（OECD）データより〕と言われており、59万4985人が造影剤投与を受けていることになる。装置の進歩による高性能化により、検査件数や造影剤使用率は増加傾向にあり、繁忙な検査室では効率的な運用と他職種との連携が重要になってくる。

業務実態調査

チーム医療問題検討委員会（日本診療放射線技師会）は、平成23年1～3月の3か月間、“診療放射線技師の業務実態”についてのアンケート調査を実施し、延べ回答施設数1001施設、延べ回答者数1546名の回答があった。

X線CT検査とMRI検査での造影剤の使用に関する項目では、「使用造影剤の準備」「使用造影剤の決定」「造影剤注入法の決定」「自動注入器からの造影剤投与」において、病床数に関係なく、造影剤の準備から投与まで診療放射線技師が実施していることがわかる（図2）。

検査終了後の抜針および止血行為については、「留置針からの抜針および止血」（図3）から、CT検査では平均28%、

500床未満の施設が最も多く41%が行っていることがわかった。MRI検査においても平均28%、500床未満の施設の40%で、診療放射線技師が抜針および止血を行っている。

このように、臨床現場においては、各専門職種が決められた身分法の範囲外で業務を行っているのが現状であり、チーム医療を考えた場合、各職種間のグレーゾーンを検証し、解決する必要がある。

静脈注射（針刺しを除く）に関する講習会の開催経緯

業務実態調査の結果が「チーム医療推進方策検討ワーキンググループ」（厚生労働省）において報告および検討され、「造影剤の血管内投与に関する業務」の検査関連行為について、「診療の補助」として実施できるとしてはどうかとの提案があった。

第24回社会保障審議会医療部会（平成23年12月1日開催）での業務実態調査の結果報告においては、現行の教育課程では、検査に関連して実施が必要となる医療行為に関する教育が十分行われていないため、安全管理上の課題があるとされた。現行の教育内容に配慮しつつ、臨床解剖学、病態生理学、臨床薬理学などを盛り込む必要がある。また、診療放射線技師の資格をすでに取得している者については、医療現場において検査関連行為を実施する際には、医療機関や職能団体などが実施する教育研修を受けるように促す必要があると提案

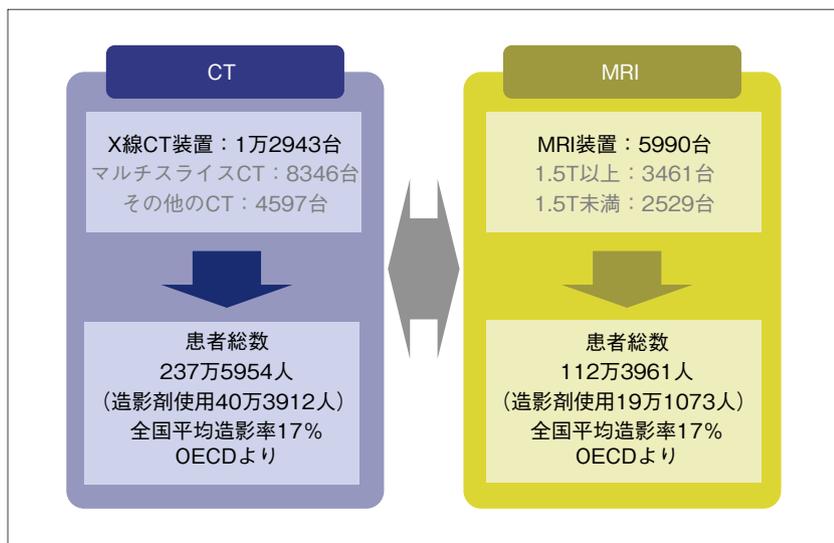


図1 CT, MRI 検査の現状
〔平成23年医療施設調査（厚生労働省）より〕